



かみさく 神作 トモ子さん

上沢在住

富士見市手話通訳者

共に学び共に行動を

私がホームヘルパーの資格を取... 当時の志す人も少なく、講座でも受講生が足りない状況でした。後に市役所のガイドヘルパーになり、視覚障がい者の方と共に町に出ると、道路や建物の不備、買い物などで不便な生活をしていることに気が付きました。それでも、積極的にハイキングや旅行などに参加し、自分の人生を歩んでいる事を知り、刺激を受けました。

ガイドヘルパーの事業が民間に移行したのを機に、手話サークルの活動に専念しました。手話との出会いは平成元年で、講習会で学ぶというよりさまざま

な行事と一緒に行動するうちに少しずつ身に付いたように思います。聴覚障がいの方が表情豊かに手話で会話するようすは、絵を描くような表現で感動します。

以前は聴覚障がい者に対する社会の理解度も低く、自らが自分たちの権利を得るために運動している状況がありました。そのような中、一番望んでいた手話通訳者派遣事業について、手話を学ぶ私たちも共に学び行動し、平成16年の手話通訳者派遣事業開始へとつながりました。そして、第一回試験に合格し、手話通訳者として活動するようになりました。

聴覚障がい者の方の生活は以前と違い少しずつ便利になってきていますが、まだまだ不便な面が多くあります。手話を学ぶ私たちがこれからも共に学び、互いに尊重しつつ歩んでいきたいと思えます。



歴・史・探・訪

ふじみ・発見!

27

南畑・東大久保地区

【南畑】

南畑は新河岸川と荒川に挟まれた低地であり、古くは難畑、あるいは難波田と書かれました。永禄2(1559)年に作成された『小田原衆所領役帳』に記された郷村名には『難波田』とあり、南畑八幡神社にある石碑には正徳3(1713)年『難畑』の文字が認められます。『新編武蔵風土記稿』には、「村名は元難畑或は難波田と書せしが、當村は荒川と新河岸川の downstream に添し地にて、屢水災に罹りしを、土人憂ひて村名の文字悪き故ならんと改めたまき由、安永元(1772)年御代官久保田十左衛門が支配たりし時、公に訴しかば松平右近將監より下知ありて、今の如くに書改めしと云、」とあり、この地が水難を受けることが多かったことを憂いて現在の文字に改め



小田原衆所領役帳(一部抜粋)

たとされています。また、南畑の土地自体の開拓は、古くは奈良・平安時代にまでさかのぼると考えられます。旧地図を見ると現在の富士見市立特別支援学校やみどり野南周辺は『三坪』、『三之坪』と呼ばれ、この坪の付く地名は条里制度(古代から中世にかけて行われた耕地地区画制度)に基づくものと思われれます。

【東大久保】

荒川と新河岸川に挟まれた低地にあり、『小田原衆所領役帳』には「大窪丹後 同内匠助 同勘解由 五拾五貫文 入東 大窪郷」、慶安元(1648)年の検地帳にも「大窪村」という文字が見受けられ、古くは大窪と称したことが伺えます。市内には『窪』の付く地名がいくつかありますが、これは窪地の意味で、窪地状の地形により起こった地名と考えられます。明治12(1879)年には郡区町村編成法の実施により、同郡内(現在の毛呂山町)に同じ大久保村があったため、毛呂山町の大久保を西大久保、当市の大久保(旧大久保村)を東大久保と改めました。



南畑八幡神社境内にある石碑

問合せ/生涯学習課 文化財担当

☎ 049-256-7023